



委員会視察報告書

委員会名	総務常任委員会
視察地	長野県茅野市
調査項目	男女共同参画のための市民への啓発活動・参画意識の向上について
調査目的	本市における男女共同参画啓発・意識向上をはかるため
日時	令和4年10月19日(水) 9:30~11:00
場所	茅野市役所
調査概要	<p>1 茅野市の男女共同参画について</p> <p>茅野市は、茅野市男女共同参画基本条例に基づき、男女がお互いの特性と人権を尊重し、男女平等の理念により、いきいきと生きる『男女共同参画社会の実現』を目指すため取り組みを進めている。</p> <p>茅野市男女共同参画推進会議を設け、区・自治会専門部会、雇用専門部会、家庭・教育専門部会の3つの専門部会が活動している。</p> <p>2 茅野市の男女共同参画の現状について</p> <p>市民の性別による固定的な役割分担意識は徐々に減ってきているが、家庭・職場・地域などあらゆる場面において多くの課題があり、男女が共に創る住みよい地域社会に向けて総合的、計画的に男女共同参画を進める必要がある。</p> <p>『第3次茅野市男女共同参画計画』における施策は</p> <p>① 男女共同参画社会の実現に向けた意識づくり</p> <p>男女がお互いの人権を尊重し、性別に基づいた固定的役割分担意識を解消するため、地域・家庭・職場・学校などのあらゆる分野において男女共同参画の必要性を啓発し、意識づくりを進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画社会という言葉の認知度 2022年目標95%が78% ・「男性は仕事、女性は家庭」という意識を持つ人の割合

	<p>2022年目標20%が19%</p> <p>② あらゆる分野への男女共同参画の推進 男女が対等な社会の構成員として能力を活かし、様々な視点や新たな発想を取り入れることができるよう、政策・方針決定過程への女性の参画拡大を働きかける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性の役員を登用している区・自治会数 2022年目標40区が32区 ・区・自治会の女性の役員数 2022年目標70人が65人 ・審議会・委員会等の女性委員登用率 2022年目標35%が28% <p>③ 職場、家庭において男女が共に活躍できる社会の実現 男女がともに人生のそれぞれの段階に応じた生き方を選択し、多様な働き方が可能となるように、働きやすい職場環境づくりを推進。また、家庭においては、男女が子育てや、介護などを協力して担い、共に、充実した生活を送ることができる環境づくりに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茅野市はつらつ事業所認定数 2022年目標83事業所が87事業所 ・「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認知度 2022年目標50%が61% <p>④ 男女の性の尊重と健康支援 女性も男性も、互いの性を尊重し、それぞれの身体の特徴を十分理解し合い、生涯にわたり健康で充実した生活を送れる環境づくりを推進。また、暴力を許さない社会づくりをすすめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる暴力防止のための広報・啓発 ・相談体制等の充実 <p>今年度は、DVに重点をおいて、市庁舎1階のロビーで『男女共同参画ロビー展』を開催（6/23～6/29）</p> <p>3 男女共同参画をテーマにした川柳について こどもの時から、家庭や日常生活の中など様々な場面で男女共同参画を意識することで、固定的性別役割分担意識や性別による偏見・思い込みをつくらない。 小学生以上を対象とした『男女共同参画をテーマにした川柳の募集事業』に取り組んだ。</p> <p>① 川柳の目的</p>
--	--

	<p>川柳を考えてもらうことで、男女共同参画を身近に感じてもらうとともに浸透を図り、各々がいきいきと生きる男女共同参画社会の実現を目指す。</p> <p>② 募集内容 性別に関係なく、誰もが学校や職場、家庭の中でいきいきと活躍できる社会をイメージできる作品。</p> <ul style="list-style-type: none">・応募資格 茅野市に在住・勤務・在学の小学生以上・応募状況 296点 (応募者134人)・賞 小学生の部・中学生の部・一般の部それぞれ 最優秀賞1点 優秀賞2点 佳作3点 <p>③ 令和3年度入賞作品</p> <ul style="list-style-type: none">・一般の部 『認め合う その一歩から はじまる輪』・中学生の部 『誰しものが 自信を持てる 世の中へ』・小学生の部 『認めよう それが初めの 一歩になる』 <p>4 茅野市男女共同参画ロゴマークについて 茅野市男女共同参画実行委員会と茅野市男女共同参画推進会議が共働し、令和3年度に茅野市男女共同参画のロゴマークを決定した。</p> <p>① ロゴマーク募集の目的 男女共同参画という堅いイメージのある言葉を、子供や様々な年代にわかりやすく、親しみやすく感じてもらうため</p> <p>② 募集内容 性別に関係なく、誰もが学校や職場、家庭の中でいきいきと活躍できる社会をイメージできる作品。</p> <ul style="list-style-type: none">・応募資格 茅野市に在住・勤務・在学の小学生以上・応募状況 97点 (応募者93人)・賞 最優秀賞1点 優秀賞2点 佳作4点 <p>③ 現在ロゴマークの愛称も募集</p>
視察の様子	 <p>(説明、質疑応答)</p>  <p>(議場)</p>

質 疑 応 答	<p>質問職場、家庭において固定的役割分担の変化は見えてきたか</p> <p>回答平成29年に行った意識調査（対象者は女性）では家事や子育てについて主に自分が50%であった。令和3年の意識調査は対象者を男女としており項目も違い比較しづらいが、女性のみの結果では「食事の支度片付け」70%「選択掃除」67%「子供の教育世話」46%と主に自分との回答から男性と女性の意識の違いがある。</p> <p>「男は仕事、女は家庭」という、性別によって役割を固定する考えについて「賛成」又は「どちらかと言えば賛成」が19%男性は外で仕事、女性は家事子育て介護に向いているとする考え方について「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」が45%、家事・子育て介護は男女協力してやるべきという考え方について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が97%となっており、男女が協力する事は理解しつつも現実には家事子育ては女性が行っている現状がある。しかし最近では公園などで子どもをみるお父さんなど多くみかけるようになって来ている、男性が子育てをする事が珍しくない時代になってきた。</p>
	<p>質問家庭での無償労働時間の比率が男女で同じになると、合計特殊出生率が高くなる新聞記事があったが、率直にどのように思うか</p> <p>回答妻の負担が多いと子供をもつ事を望まない事もあり得る。色々な優遇措置があっても妻の負担は軽減されない、夫が積極的に妻の負担を減らし子供をもつ事に前向きになる事が重要である。法整備による働き方改革も出生率向上には有効となるのではないか。</p>
	<p>質問男女問わず育休取得後の収入面で不安があるとの声を聞く。市民からこのような意見はあるか。</p> <p>回答男女共同参画の担当には直接そういった事は聞いていないが、休業給付や所得税がかからない事や社会保険免除などによりおおよそ8割程度の収入はある。</p> <p>育児休業”後”の収入面という事ですと『出世』『昇進』の遅れによる不安と考えると、育児休業の制度においては不利益な取り扱い禁止やハラスメントの防止が義務付けられており、そのような事がおこらないようにする取り組みが必要である</p>
	<p>質問働き方改革推進のために、国から「労働時間法制の見直し」</p>

「雇用形態に関わらない公正な待遇の確保」を段階的に実行するよう求められている。男女共同参画社会の実現に向けて有効と考えるか。

回答難しい質問で回答に悩むが、労働時間法制はワーク・ライフ・バランス等で多様で柔軟な働き方を実現するために見直されたものと思う。これが正しく実行されれば家にいる時間が増えるなど男女共同参画社会の実現に向けて有効ではないかと思う。

質問男女共同参画推進大会が毎年開催されているが、どのような内容なのか、事業効果について伺う。

回答コロナ禍により令和元年以降は実施していないが、令和元年は「輝け!!男女(わたし)たち令和から未来へ」をテーマとして、茅野市男女共同参画推進会議の取り組み紹介、区・自治会アンケート結果の公表と部会の取り組み発表、映画上映、男女共同参画をテーマにした川柳の表彰式、パネル展示、朗読、物品販売などを行った。市民の参加も多く男女共同参画の啓発・意識向上について一定程度事業の効果はあった。
コロナ禍が収束したらまた開催することを検討している。

質問男女共同参画推進会議の役割、位置付けは何か。

回答茅野市男女共同参画推進会議設置要綱により役割が定められている。

- ① あらゆる分野への男女共同参画の推進に関する事。
- ② 職場、地域及び家庭において男女が共に活躍できる社会の実現に関する事。
- ③ 男女の人権を尊重する意識づくりに関する事。
- ④ 男女の性の尊重と健康支援に関する事。
- ⑤ 男女共同参画計画の見直しに関する事。
- ⑥ その他男女共同参画計画を推進するために必要な事項となっており、男女共同参画を推進するための様々な意見をもらっている。

質問男女共同推進会議の家庭・教育専門部会では小学校を訪問し、児童や保護者への啓発活動の取組をされているが、具体的にはどのような活動なのか。

回答コロナ禍の影響もあり、学校への訪問が難しいため現在はありませんが、絵本の読み聞かせ(人権について考える)

	<p>かるたをしましょう！（男女共同参画かるたを使って考える） 将来何になる？（仕事に男女の区別は必要？）、どんな色が好き （男の子の色、女の子の色ってあるの？）などを行い、こども のころからの男女共同参画意識向上にむけて取り組んでいます</p> <p>質問平成20年から、男女共同参画推進会議の区・自治会専 門部会が取り組んでいるが、市民の意識変化を伺いたい。</p> <p>回答区・自治会における女性役員登用について、平成20年度 から現況調査を毎年行っているが、当初は18%であった割合 が平成25年は27%、平成30年も27%、令和3年は36 %と大幅に増加している。市民の意識は向上していると思う。</p>
<p>委員会所感</p>	<p>【阿部委員長】 茅野市では男女共同参画の市民意識を向上させるために男女共 同参画推進会議内に3つの専門部会を設け、家庭・教育専門部 会では小学校を訪問し、若い世代への啓発活動を進めているこ とや雇用専門部会ではロゴマークなどの提案、作成するととも に、今年度はロゴマークの愛称を募集するなど、市民全体に親 しみを持って頂くための啓発活動を行っている。また、行政と しては毎年アンケート調査を行い、市民の意識を変える取り組 みを積極的に進められていました。家庭や職場において、男女 共同参画の必要性を理解していただくために地道な活動と親し みを持っていただく活動が重要だと感じました。また、定期的 に各種認定事業の見直しも必要だと感じました。</p> <p>【布施副委員長】 茅野市の男女共同参画については川柳を募集するなど市民一人 一人が興味を持つ制度であり、当市も参考にすべきと思われ た。 また男女共同参画に独自のVI（ヴィジュアルアイデンティ ティ）いわゆるシンボルマークを用いている点も特筆すべきと 言える。 男女共同参画でここまでしている自治体は私が知りうる限り 茅野市が初めてであり力のいれ具合が伝わってきた。 当市もVIを導入すべきではないかと考えさせられた視察で あった。</p> <p>【星野幸彦委員】</p>

男女共同参画に対する市民意識の向上について、“おとな”に対して突然参画の意識をあげろ！と言うことでは意識の向上は難しいとし、子供の頃から意識をもってもらう事が後に市民全体の意識向上につながる事の取り組みを進めている。子供たちに男女共同参画をテーマにした川柳の取り組み・ロゴマークでの取り組みの意思表示など長期的なスパンを見据えた取り組みは感心させられた。

柏崎市もなかなか意識啓発の広がりが難しい現状で、じっくり時間をかけた取り組みも必要ではないかと感じた。

【三宮委員】

男女共同参画の所管部門を教育委員会の生涯学習課に置いていることから、啓蒙啓発や周知の段階と思われるが、視察の説明者が全て女性であり女性の活躍を意識的にアピールしていたように感じた。

「国勢調査で全国的に女性の就業率は向上し、男性の就業率は下がっている。仕事も家庭も住んでいる地域で“女性よもっと頑張れ！”と言っているが、私が女性の立場なら「冗談じゃない」と言いたいがどうか」との質問に対し言葉にせず頷いていた様子が印象的だった。

【飯塚委員】

人権都市宣言の人権条例がベースとなっているので男女共同参画の啓発活動への市民参加度が高い。

男女共同参画社会の優位性や、良いイメージがなかなか浮かばない、モデル地域、モデル事業所など「モデルづくり」が必要である。

【佐藤委員】

茅野市では毎年アンケート調査を行い、市民の意識を変える取り組みを積極的に進めている。しかし、活動量に対して中々前進していかない様子も見て取れるが、家庭や職場において、男女共同参画の必要性を理解していただくためには地道な活動を続けるしかないのだろう。柏崎市も活動量自体を増やし市民の目に触れる所（親しみを持てる）での活動が重要だと感じる。そういった意味では、身近に感じる啓発活動としての「川柳」や「ロゴマーク」もかなり有効な施策である。

【若井委員】

茅野市は子供の時から家庭や日常生活の中など様々な場面で男女共同参画を意識することを目指して、川柳やロゴマークの募集を行ない、男女共同参画の意識向上に向けて取り組んでいる。今後はその成果物をどのように生かすか、そして応用していけるかが重要である。当市と同じように男女共同参画の意識変革は一朝一夕には実現不可能である。様々な機会や取り組みを通して人権意識の向上に努める事業を継続することが重要であると感じた。

【星野正仁委員】

視察を終えて感じたこと。茅野市ではアンケート調査の結果の分析を施策反映され、さらに課を横断しての取り組みがとても参考になりました。身近に感じる啓発活動としての「川柳」も市民全体特に子供たちへの啓発にとっても有効と思いました。ロゴマークについては市民への参画のイメージと親しみやすさの啓発としては他市ではあまり類のない取り組みでとても参考になりました。